

インターネット調査における選択肢のバイポーラユニポーラ表示効果

調査方法： インターネット調査
調査対象： アダムスマニター登録者の方々
調査時期： 2007年11月12日～11月20日
調査内容： 政治や企業に対する考え方（6問）

この調査では52,452件のアダムスマニター登録者の方々から、合計で10,924サンプルの有効回答を回収したが、このレポートではその10,924サンプルの一部である2,771サンプルの回答結果から選択肢表示の順序効果を分析するものである。それぞれの選択肢表示方式に対して、下記のような6種類の質問で回答を得た。

- 質問1 今の内閣が地域格差の問題を優先的に解決することにどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）
- 質問2 今の内閣が年金問題を優先的に解決することにどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）
- 質問3 企業が事業で得た利益を使って、環境保全などの事業以外の活動を行うことにどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）
- 質問4 企業が株主への利益還元を最優先することにどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）
- 質問5 今の政治家は世論に迎合しすぎている、という意見にどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）
- 質問6 経済状況の良し悪しはその時の政治によって決まる、という意見にどれくらい（以降選択肢にあわせた聞き方）

対象2,771サンプルに対して、上記6種類の同じ質問を、異なる4種類の選択肢表示方式で聞いている。その4種類の選択肢表示方式と各回収サンプル数は下記の通り。

縦配列、バイポーラ尺度 (n=769) <ul style="list-style-type: none"><input type="radio"/> とても強く賛成<input type="radio"/> 賛成<input type="radio"/> やや賛成<input type="radio"/> どちらともいえない<input type="radio"/> やや反対<input type="radio"/> 反対<input type="radio"/> とても強く反対	縦配列、ユニポーラ尺度 (n=693) <ul style="list-style-type: none"><input type="radio"/> とても強く賛成する<input type="radio"/><input type="radio"/><input type="radio"/><input type="radio"/><input type="radio"/><input type="radio"/><input type="radio"/> 全く賛成しない																														
横配列、バイポーラ尺度 (n=654) <table border="1"><tr><td>とても 強く 賛成</td><td>賛成</td><td>やや 賛成</td><td>どちらとも いえない</td><td>やや 反対</td><td>反対</td><td>とても 強く 反対</td></tr><tr><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td></tr></table>	とても 強く 賛成	賛成	やや 賛成	どちらとも いえない	やや 反対	反対	とても 強く 反対	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	横配列、ユニポーラ尺度 (n=655) <table border="1"><tr><td>とても強く 賛成する</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>全く 賛成 しない</td></tr><tr><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td><td><input type="radio"/></td></tr></table>	とても強く 賛成する							全く 賛成 しない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
とても 強く 賛成	賛成	やや 賛成	どちらとも いえない	やや 反対	反対	とても 強く 反対																									
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>																									
とても強く 賛成する							全く 賛成 しない																								
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>																								

上記2種類の縦配列の方式で得た回答結果の比較と、2種類の横配列の方式で得た回答結果の比較を行うことによって、選択肢がバイポーラ尺度の場合とユニポーラ尺度の場合で回答結果に差異が生じるのかどうかを調べた。バイポーラ尺度は、中立の意味を持つ「どちらともいえない」を中心に、肯定的な意味を持つ側と否定的な意味を持つ側の2方向に分かれた選択肢が尺度標識となっている。ユニポーラ尺度は、賛成する度合いを「とても強く賛成する」から「全く賛成しない」の間で選択する方式となっ

ており、両側の選択肢以外は尺度表示がない方式となっている。比較の方法としては、それぞれ肯定的な意味を持つ選択肢トップ3の割合を比較することとした。バイポーラ尺度で得た回答のトップ3の割合からユニポーラ尺度で得た回答のトップ3の割合を差し引いた結果を下記に示す。

縦配列の場合

バイポーラ尺度トップ3の割合からユニポーラ尺度トップ3の割合を差し引いた結果

質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6
6.7*	0.6	1.4	1.8	-0.3	0.9

横配列の場合

バイポーラ尺度トップ3の割合からユニポーラ尺度トップ3の割合を差し引いた結果

質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6
2.0	1.1	-0.3	-5.3*	-10.6*	-2.5

- 上記結果に見られるように、縦配列の場合は質問1で顕著な違いが現れ、横配列の場合は質問4と質問5で顕著な違いが現れた。(カイ2乗検定で $p < 0.05$)
- バイポーラ尺度とユニポーラ尺度で、結果に違いが見られる質問とほとんどその差が見られない質問があったわけであるが、質問によってはバイポーラ尺度とユニポーラ尺度では、たとえどちらも7段階尺度の選択肢であったとしても、選択肢の意味が異なることから結果に違いが現れた可能性がある。(順序効果などの「ビジュアル」な違いではなく、「意味」の違いが大きく現れる場合があるのかも知れない。)
- 結果に差が見られた原因について、その他に考えられることは中間選択肢の違いがあげられる。バイポーラ尺度では中間選択肢が(「どちらともいえない」として)明確に表示されているが、ユニポーラ尺度の場合は中間選択肢がややあいまい(中間選択肢に標識が立っていない)になっている。全ての場合に当てはまるわけではないが、横配列の場合の質問4や質問5では中間選択肢の割合の下記のような差が見られる。
 - 横配列の質問4(トップ3比較で -5.3ポイント): 中間選択肢の差は 6.1ポイント
 - 横配列の質問5(トップ3比較で -10.6ポイント): 中間選択肢の差は 14.7ポイント
- また、質問の内容によっては、「否定的な選択肢を選ぶことに対する抵抗」が影響してくる可能性も考えられる。バイポーラ尺度の場合、「反対する」という否定的な(逆の)意味を持つ選択肢を選ぶことに対して潜在的な抵抗感があるのかもしれない。しかし、ユニポーラ尺度の場合には、「賛成しない」という選択肢であり、否定する言葉となっているが賛成の度合いが低いことを示している選択肢であり、対抗する意味を示す選択肢ではない。上記、縦表示の場合の6つの質問と横表示の場合の6つの質問、合計12の質問のボトム3を見てみると、統計学的に顕著でないものもあるが、全てユニポーラ尺度の場合の方がボトム3の割合が多くなっている。

- 4種類の各表示方式に回答した対象者サンプルの性・年代の構成は下記の通りとなっており、それぞれほぼ均等な性・年代構成となっているので、これらの属性が調査結果に影響を与えた可能性はほとんどないと考えて良いと思われる。

		縦配列、バイポーラ 尺度 n=769		縦配列、ユニポーラ 尺度 n=693		横配列、バイポーラ 尺度 n=654		横配列、ユニポーラ 尺度 n=655	
		n	%	n	%	n	%	n	%
男性	20歳未満	0	0.0	0	0.0	1	0.2	0	0.0
	20-29歳	55	7.2	39	5.6	35	5.4	40	6.1
	30-39歳	98	12.7	67	9.7	83	12.7	80	12.2
	40-49歳	88	11.4	96	13.9	80	12.2	82	12.5
	50-59歳	57	7.4	60	8.7	39	6.0	59	9.0
	60歳以上	22	2.9	22	3.2	30	4.6	21	3.2
	合計	320	41.6	284	41.0	268	41.0	282	43.1
女性	20歳未満	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
	20-29歳	109	14.2	77	11.1	84	12.8	70	10.7
	30-39歳	172	22.4	169	24.4	159	24.3	152	23.2
	40-49歳	124	16.1	107	15.4	97	14.8	103	15.7
	50-59歳	37	4.8	44	6.3	42	6.4	41	6.3
	60歳以上	7	0.9	11	1.6	4	0.6	7	1.1
	合計	449	58.4	409	59.0	386	59.0	373	56.9
合計		769	100	693	100	654	100	655	100

このレポートの関するお問合せはアダムスコミュニケーション調査開発部へお願い致します。